

	公表	事業所における自己評価結果
--	----	---------------

事業所名	サポートハウスミライエ		公表日 2026年3月27日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3		利用者の様子を見ながら常に工夫改善を行っている。 直近では窓の目隠しシートを貼り、活動に集中できるように配慮した。 各部屋での用途に応じて支援をすることができている。	利用定員とスペースのバランスを踏まえながら、より良い支援環境の維持
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	1	利用者の人数に合わせ、多すぎたり少なすぎないよう、活動も見ながら同じ空間にいる人数を調整している。OJTの受け入れにより、支援するスタッフが半年で変わっているが、4月から新しくスタッフが入ることで、安定した支援が出来るようになると思われる。 OJT研修を受けている方も加わっているため配置数は満たされている。	職員の入れ替わりによる影響
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3		入っていい場所、あけていい場所を見えわかるようにマークであたり色分けを行っている。 階段ステップにはすべり止め、持ち物置き場などを示す掲示、活動の内容によつての活動の場を工夫している。	障害特性に応じた分かりやすく安全な環境設定を継続
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3		毎日の清掃はもちろん、温度湿度にも配慮し、本棚の絵本も整えている。 本棚に関しては度の絵本をどの棚に戻すかわかるよう、本と本棚に色分けをするよう考えている。 毎回の消毒、毎日の清掃など心がけている。	子どもたちの活動に合わせた環境設定を工夫
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3		個別で行う場合の環境整備、また指導員の配置、連携をしている。	支援体制の充実
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	2	1	ケース会議を設け、個々の支援目標設定を行い支援にあたっている。	より多くの職員が参画
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2	1	保護者向けの評価アンケートを実施している。	業務改善へとつなげていけるよう取り組みを一層強化
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2	1	管理者会議、職員勉強会、必要に応じて会議などを行って業務、支援の改善、工夫を行っている。	継続的な業務改善と支援の質
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		3	外部からの見解、意見も職場の向上につながるもので必要ではないかと思う。	必要に応じて外部評価の導入
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3		職員研修、外部講師による研修を行っている。	学んだ内容を日々の支援に活かす
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3		利用者の個別支援計画を職員に回覧し支援内容を把握している。 またその都度ケース会議を行い利用者の行動改善につながるよう支援内容について会議している。	職員間での情報共有と継続的な見直し
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	3		定期的にモニタリングを行い、必要に応じて短い期間でも家族支援を行って家庭との関わりを多く持ち、利用者のニーズを引き出して個別支援計画に反映している。	ニーズを的確に把握し、より質の高い支援計画の作成と実践
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		関係機関連携会議や家族支援、またケース会議での情報の共有を行って検討している。	支援に関わる職員が連携
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3		原案を回覧し指導員に見てもらっている。指導員からの意見を付けてもう一度計画を見直し、再度原案を確認、周知してもらっている。	体制の維持・向上
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3		アセスメントを行っている。また個々の利用者の目標を設定して、その都度、評価、検討をしている。	より客観的で適切な状況把握と支援の質の向上
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	2	1	個々の目標に向かって必要なアプローチ方法などをその都度話し合い確認して支援に臨んでいる。	チームでの連携
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3		個々の、また集団での利用者の様子、行動を見て工夫している。	発達段階に応じて柔軟にプログラムを見直し

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	3		小集団活動としては、個々の目標に合わせて個別の対応を行っている。個々の支援内容を踏まえ、集団でも行動が改善される支援内容を組んでいる。	バランスのよい組み合わせ
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2	1	利用者の出席状況や前回までの様子などを踏まえて行っている。	チームで連携
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	1	ケア記録をとりながらそれぞれのポジションから見た様子などを伝え合っている。	丁寧な振り返り
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3		ケア記録をとり保護者に公開している。	記録の充実と活用を図る
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	2	1	必要があれば指導員も参加している。	適切に参画
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	1	利用者の所属の幼稚園、療育事業所などと連携している。	より一層情報共有と協働を進める
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3		就学に際して学校も含めた会議を相談事業所を中心として開催し情報の共有を図っている。	連携の強化
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○		助言や指導を受ける体制を検討
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	2	支援時間が午前と午後で2時間ずつだからなかなか交流の場は持てないが、地域の消防活動に参加している。	交流の機会を工夫
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	3		送迎時などで保護者と合う際には少しの時間だが、話す機会を作っている。	情報共有できる工夫を重ねる
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3		保護者勉強会を開催している。	家庭と連携した支援の強化	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3		契約時に説明をしている。	契約時だけでなく、必要に応じて保護者に分かりやすく情報を伝える機会を設ける
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	3			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	2	保護者勉強会にて保護者も交えながら談話することがある。	交流の機会を工夫
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	2	1		

	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3		話す内容を簡潔に端的に話したり、時には筆談も設け視覚的にも伝える工夫をしている。	円滑なコミュニケーションの確保
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		3		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3		避難訓練時の予告、報告の掲示、感染症対策の掲示を示している。	実際の訓練や周知方法の充実
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3		アセスメントを実施して把握している。	情報を正確に把握
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	1	2	食事提供なし 食事の提供は行っていないが、把握はしている。	健康情報を適切に管理
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	2	1		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	2	1		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3			